

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	高村, 象平
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1947
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.40, No.10/12 (1947. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾九十周年記念論文集：第二輯
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19471201-0173

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

來におけるマライのインドネシア連邦参加希望の表明、さらに最近のインドネシアにおける蘭・イ交戦に關し、印度中間政府が米・英兩國にその調停方を要請したこと等は、いづれもその現はれといへよう。

かゝる傾向の進展は、その基本において、戦時中各種植民地において進められた各地原住民の貧困化とその大衆的利害の一致共通が、戦後の獨立・解放運動に際して共同戦線の形成を導くに至つた、ゆゑと解される。この點については、戦時を通じて示されたソ連民族政策の成功、就中、多民族國家としてのソ連邦の鞏固な民族的團結の成果が、植民地民族のソ連邦に對する信頼感を増大するに資した事實を輕視できない。そしてこの事は、植民地、半植民地國、後進諸國等における民主革命の過程に、新たな推進要因と展望を賦與するに足るであらう。

かくして嘗ての植民地にとつては、既往の對本國從屬的地位よりの離脱と共に、その自主的地位を自らの力、相互の協力によつて守り育てることが、現實の課題となり來つた。この場合、最も警戒すべきことは、徒らなる内部的紛争によつて、國際諸勢力の利用對象とならぬことである。先に見た印度、インドネシア、インドシナ等々の場合に限らず、新獨立國はいづれも再び分割統治の犠牲に墮することなき様、先づ自ら戒めねばならない。そして既述の如き各本國勢力による新(超)帝國主義政策の適用に對し、常によくその本態を見究めることが肝要であり、資本主義強大國の援助と支持に恩恵を感じつゝも、その市場問題解決の具に供せられることにより、自己の福祉増進の方向を見失はぬことである。

かくて今や、植民地問題の國際的規模における解決を通じ、解放戦の結果、世界民主主義化の一翼としての、その自治・獨立の完成にこそ、現段階における世界植民地問題の意義が見出される。洵に戦後における植民地問題の解決は、世界の新平和機構設定・維持の觀點から、追求せられねばならない。(一九四七・七・二四)

編輯後記

本號は曩に發行した慶應義塾創立九十年記念論文集第一輯の續卷である。本昭和二十二年は、本號創業の安政五年より算えて九十年目に當る。五月二十四日には天皇陛下の親臨を仰いで祭典を舉行した。經濟學部教授・助教(同時に本學會會員)はこの機に各自專攻の一文を持ち寄り、以て記念論文集二冊を上梓することにしたのである。たゞ諸般の事情に阻げられ遂に寄稿されなかつた會員六名を算えるのはかかる編纂物にもすれば生じ勝ちな故障であるとはいへ、この結果を見るに至つたのは編輯者の熱意にも恐らく缺けてゐたところ尠くなかつたのであらうことを憶ひ、讀者諸賢におわびする次第である。

用紙事情の窮乏のため、この論文集二冊は昭和二十二年下半期六ヶ月分の割當用紙全部を費した。増頁も増刊もならず、個々の論文の長さも亦自づと一定限度にとどめられた。これ等の障碍は、來るべき本塾創立三百年を記念する論文集の編纂の際には、すべて霧散してゐるであらうことを希つてやまない。然しそれは他力本願で済まし得ることではない。一見縁遠い吾々の日々の仕事も亦、この隘路突破に一役買つてゐるのであることを夢忘れてはならないであらう。

尙記念論文集第一輯の内容は本號巻末附載の昭和二十二年下期總目次で御承知ありたい。

(高村象平)

昭和二十二年十月二十五日印刷 第四十卷
昭和二十二年十二月一日發行 第十一三號

本號定價 金四拾五圓

送料 二圓四十錢

發行所 東京都港區芝三田慶大經濟學部内
高村象平

印刷所 東京都港區芝三田慶大
川口芳太郎

印刷所 東京都港區芝三田慶大
圖書印刷株式會社

豫約購讀料 一年分 金二百圓(送料共)
半ケ年 金百圓

豫約購讀料は發賣所宛お拂込み下さい
誌代變更の場合は精算決濟致します

編輯に關する用件は發賣所へ
營業に關する用件、購讀申込は發賣所へ願ひます

發行所 東京都港區芝三田三丁目慶應義塾大學經濟學部研究室内
慶應義塾經濟學會

發賣所 東京都港區芝三田二丁目
日本出版協會會員A二二〇一六
慶應出版版社
日本出版協會會員A二二〇一九

郵 給 元 東京都千代田區
神田區錦町三ノ九 日本出版配給株式會社